

播磨圏域経済成長戦略策定の進め方について

姫路市地方中枢拠点都市推進室

1 モデル都市取り組みイメージ

平成26年度中の連携協約締結を目指し、(仮称)播磨圏域活性化ビジョン(案)の策定と事業規模の算定に取り組む

(仮称)播磨圏域活性化推進会議(連携協約締結市町の首長)⇔(各構成市町議会による連携協約議決)

- 下記1~4の取り組みの成果を集約し、反映する。
- 構成市町との協議や各分野の関係者からの意見聴取等を実施。

1. 播磨圏域活性化推進検討会 ※モデル事業参加市町

- ア. 圏域全体の経済成長のけん引、イ. 高次の都市機能の集積、ウ. 圏域全体の生活関連機能サービスの向上に係る連携事業について検討
- その他連携協約締結に向けた諸課題について検討

【参加市町】 合計8市8町(姫路市を含む)

- 地方中核拠点都市 : 姫路市
- 10%以上通勤・通学圏 : 相生市、高砂市、宍粟市、たつの市、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町(4市5町全て参加)
- 10%未満通勤・通学圏 : 加古川市、赤穂市、加西市、福美町、播磨町、佐用町【オブザーバー】 3県民局長、中播磨県民センター

連携

3. 姫路市地方中核拠点都市推進会議

市長をトップとする推進会議を設置し、その下にPTを組織。

- ア. 圏域全体の経済成長のけん引、イ. 高次の都市機能の集積、ウ. 圏域全体の生活関連機能サービスの向上の検討を行う庁内連絡体制を整備。

平成26年4月から姫路市企画政策推進室の中に地方中核拠点都市推進室を設置。1~4の事務局として運営を行う。

連携

4. 播磨広域連携協議会

播磨地域(13市9町)では既にいくつかの広域連携事業を行っている。今後は、各クラスターとの連携など、経済成長戦略に掲げる事業との相乗効果が発揮されるように、播磨広域連携協議会の事業と地方中核拠点都市の事業について、連携を図っていく必要がある。

【これまでの播磨広域連携協議会の主な事業】

- ・はりま酒文化ツーリズム(観光) ・広域防災連携協定に基づく合同防災訓練(防災)
- ・日本郵便株式会社との連携(防災、福祉、地域振興)

○播磨広域連携協議会構成市町
姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、西脇市、三木市、高砂市、小野市、加西市、宍粟市、加東市、たつの市、明石市、多可町、福美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町

連携

連携

連携

2. 播磨圏域経済成長戦略会議

ア. 圏域全体の経済成長をけん引する施策について、産学金官民によるラウンドテーブルを設置し経済成長戦略を策定するとともに、平成27年度以降も継続してフォローアップに取り組む。下部に圏域内の関係者と各市町担当者により組織するクラスターを設け、テーマごとに具体的な検討を行う。

播磨圏域経済成長戦略会議 キックオフ会議(4月22日開催)

- ・姫路商工会議所会頭、加古川商工会議所会頭、相生商工会議所会頭
- ・姫路経営者協会会長、兵庫西農業協同組合代表理事組合長
- ・兵庫県立大学学長、姫路獨協大学学長
- ・三井住友銀行役員
- ・姫路市長、加古川市長、相生市長

※オブザーバー: 東播磨県民局長、中播磨県民センター長、西播磨県民局長

【播磨圏域経済成長戦略会議 総会】(キックオフメンバーを拡大)

(産業界・民間) 商工会議所会頭、経営者協会会長、JA組合長など
(大 学) 兵庫県立大学学長、姫路獨協大学学長
(金 融 機 関) 三井住友銀行役員、みなど銀行役員、信用金庫理事長
(地 公 体) 姫路市長、播磨圏域活性化推進検討会参加市町長

※オブザーバー: 3県民局長、中播磨県民センター長
(公財) ひょうご科学技術協会

- 広域観光クラスター
- ブランド育成クラスター
- イノベーションクラスター

2 圏域全体の経済成長のけん引(イメージ素案)

〇産学金官民によるラウンドテーブルを設置し、経済成長戦略を策定

播磨圏域経済成長戦略会議

- (産業界・民間) 商工会議所会頭、経営者協会会長、JA組合長 など
(大 学) 兵庫県立大学学長、姫路獨協大学学長
(金 融 機 関) 三井住友銀行役員、みなど銀行役員、信用金庫理事長 など
(地 公 体) 姫路市長、播磨圏域活性化推進検討会参加市町長
※オブザーバー: 3県民局長、中播磨県民センター長、(公財)ひょうご科学技術協会役員

(Ⅰ) イノベーションクラスター

- ・圏域内の事業者に向けた異分野異業種交流
 - ・新素材・新技術に関する講座の開設
 - ・事業化に向けた産学金官の共同研究の実施
 - ・企業・大学間のコディネーターの育成
 - ・新技術・新製品開発のための中小企業支援
 - ・起業に向けたセミナー開催
 - ・転廃業・集約化の促進 等
- (具体例: 高度研究施設の利活用支援、水素エネルギー社会実現に向けた先駆的取組、木質バイオマスによる環境エネルギー支援、新産業創出支援 等)

(Ⅱ) ブランド育成クラスター

- ・地域ブランド育成のための試作やPRの支援
 - ・農水産物のブランド化に向けた支援
 - ・専門家の紹介・派遣
 - ・売上動向等のデータ把握と商品開発への反映 等
- (具体例: 播磨ブランドの確立とPR・販売、展示会・見本市等の開催、新品種の開発・普及による農家育成 等)

(Ⅲ) 広域観光クラスター

- ・圏域内観光の受皿整備のための基本構想・計画の策定
 - ・圏域全体の観光資源を対象としたプロモーションやファミツアーの実施
 - ・外国人観光客の誘致活動
 - ・圏域外の観光客を見込んだ大規模イベントの開催
 - ・経済波及効果・情報発信力の高い国際会議等の誘致と圏域内関連ビジネスとのマッチングの促進 等
- (具体例: 広域観光ツアーの企画・販売、インバウンド観光の推進、路線バスを活用した旅の開発、観光案内アプリの開発・普及 等)

3 クラスター創造チームについて

■【ワーキングチーム】(姫路市、各市町職員、姫路商工会議所)

※具体的な施策の検討を行う。

- ・全体調整リーダー(姫路市市長公室長 内海将博、姫路市産業局長 北川 俊文)
- ・チーム活動リーダー(姫路市企画政策推進室参事 段 守)

●【アドバイザースタッフ】(産・学・金・民)

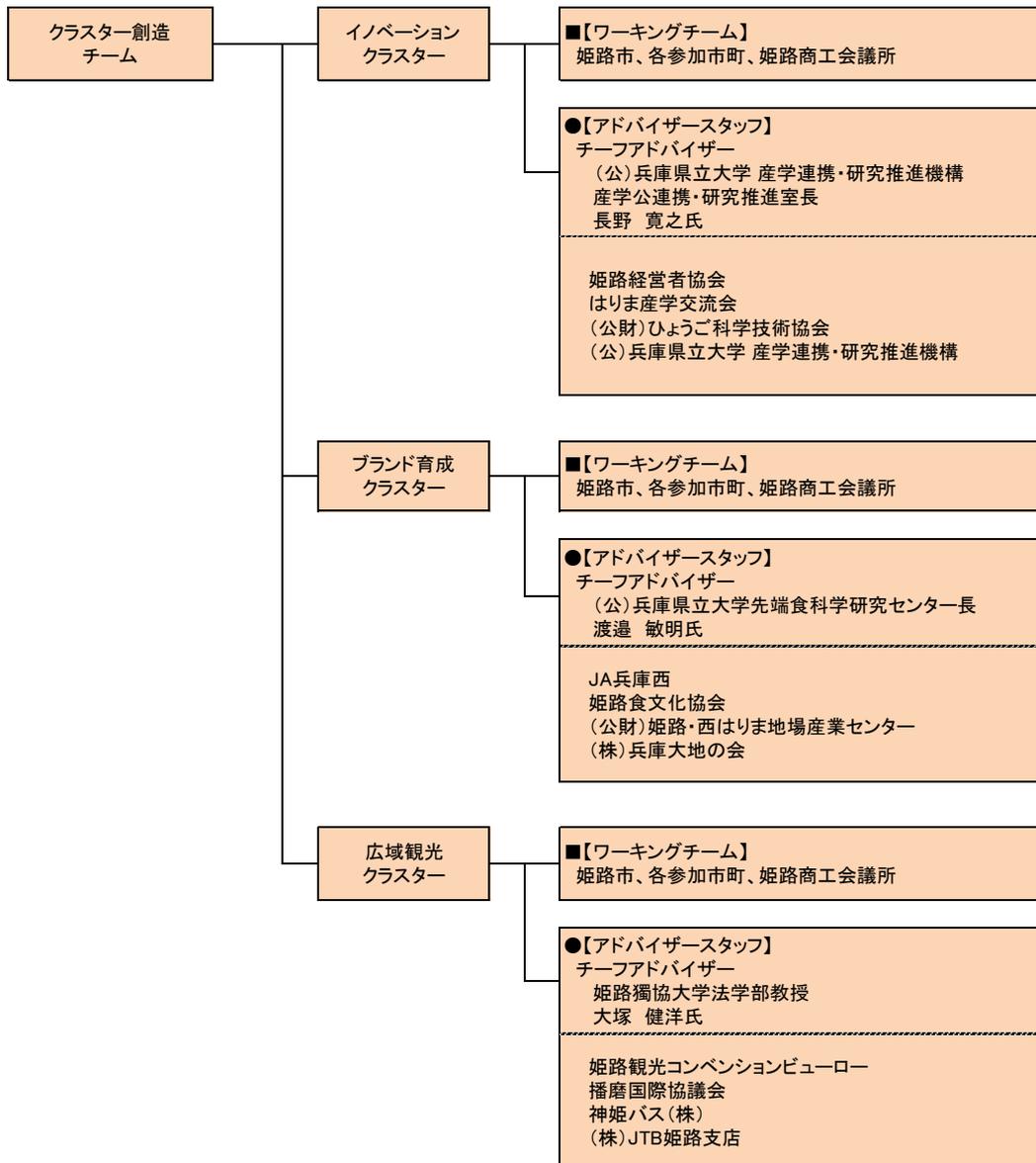
※ワーキングチームで検討された施策へのアドバイスを行う。

- ・クラスターに係る事業に関連する事業者等の方に依頼
- ・チーフアドバイザー
 - (イノベーションクラスター (公)兵庫県立大学産学公・研究推進室長 長野寛之氏)
 - (ブランド育成クラスター (公)兵庫県立大学先端食科学研究センター長 渡邊敏明氏)
 - (広域観光クラスター 姫路獨協大学法学部教授 大塚健洋氏)

【総合アドバイザー】

※ワーキングチーム、アドバイザースタッフが連携して検討した施策・事業及び創造チーム全体の運営に対して総合的なアドバイスを行う。

- ・姫路商工会議所副会頭 齋木 俊治郎氏
- ・(公)兵庫県立大学 副学長(産学連携・研究推進機構長) 太田 勲氏



4 スケジュール

1. 6月
 - ・第1回クラスター会議
 - ・総務省「新たな広域連携モデル構築事業」モデル都市に選定(6月27日)
2. 7月2日
 - ・第1回「播磨圏域経済成長戦略会議」開催

(この間、ワーキングチームにおいて主に検討、アドバイザーには適時意見伺い。)
3. 10月頃
 - ・第2回クラスター会議
 - ・第2回「播磨圏域経済成長戦略会議」開催
 - ※「播磨圏域経済成長戦略」の策定
4. 11月頃
 - ・第1回「(仮称)播磨圏域活性化推進会議」開催
 - ※連携協約締結予定の市町長で構成され、「活性化ビジョン(成長ビジョン)」(案)の内容の検討及び調整を行う。
5. 12月以降
 - ・連携協約案について、各市町の議会において審議
6. 平成27年2月27日
 - ・総務省「新たな広域連携モデル構築事業」報告書提出期限

	平成26年							平成27年			
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
播磨圏域経済成長戦略会議		→									
クラスター創造チーム (クラスター会議)		→									
播磨圏域活性化推進会議						→					
各市町議会 (連携協約案審議)						→					
新たな広域連携モデル構築事業		→									